

美濃加茂市未来のまちづくり委員会（第3回）議事録

1. 日時：平成30年11月2日（金） 午後7時00分～9時00分

2. 場所：美濃加茂市生涯学習センター 402号室

3. 出席者（順不同）：

（1）委員：

海道会長、生田委員、須藤委員、原田委員、山田委員、鈴木委員、宮口委員、渡邊副会長、長谷川委員（9名中9名出席）

（2）業務委託先：

株式会社地域計画建築研究所 2名（立地適正化計画）

玉野総合コンサルタント株式会社 2名（新庁舎整備基本計画）

（3）市：

経営企画部長、経営企画部対策監、施設経営課長、その他施設経営課3名

建設水道部対策監、都市計画課長、その他都市計画課2名

4. 委員の変更について

市議会新庁舎建設特別委員会の委員長が、高井氏から山田氏へ変更した。それに伴い、高井委員が委員を解嘱され、新たに山田委員が委員として委嘱されたことが、事務局から報告された。引き続いて、山田委員からあいさつがあった。

5. 報告事項

事務局から、資料に基づき報告がされた。報告内容は、前回委員会の議事録、今後の委員会スケジュール、かわらばん vol.1 の発行についてである。

6. 審議事項

（1）まちづくり基本方針・・・資料2-1

事務局から、資料に基づき、まちづくり方針（素案）及び市民意向調査結果の概要について説明があった。委員から出された主な意見は以下のとおり。

- ・都市計画マスタープランとの関係を考慮しつつ、用語（コンパクト、サテライト、都市拠点、サブ拠点、地域拠点、医療拠点等）の整理をしてわかりやすくしてほしい。
→用語を整理した上で素案を修正する。
- ・資料1枚目、1ページの「4. 公共交通の利便性を享受することのできるまちづくり」に記載されている「居住誘導を図りつつ」というのは、言い方が少しくつく感じる。例えば「促しつつ」などの柔らかい表現がよいのではないか。
→「居住誘導を図りつつ」の文言を修正する。
- ・将来的に居住誘導区域の線引きをする際は、どのような方針のもとで線引き位置を決めたかが、しっかりと市民に理解されるようにすべき。
→設定基準を分かりやすく説明した資料を準備する。
- ・意向調査結果において、公共施設や公共交通の重要度が低いという結果には驚いた。さらに掘り下げて考えたい。年齢別や居住地別で分析した結果を見てみたい。
→次回までに年齢別や地区別のクロス集計を整理する。
- ・将来、居住誘導区域を具体的に線引きするとき、同一町内で区域に指定される場所とさ

れない場所ができることになる。サービスの点を含めて役所として対応できるかどうか。簡単に線引きができるかどうか疑問である。

- ・コンパクトにしようとする発想は理解できるが、居住誘導区域を指定することにより、場所によっては、空洞化が進んでいる地域がさらに空洞化してしまうことを危惧する。また、「浸水想定区域3m超」という記載があることも気になる。
→誘導区域を指定しても都市計画の線引きと異なり、居住を規制をするわけではないということを理解いただきたい。

(会長から)

- ・これまでの委員会で事務局が既に説明したかもしれないが、改めて、立地適正化計画の中で居住誘導区域がどのような位置付けになっているか、また全国的に例は少ないが、居住を抑制する区域の設定や、抑制された区域でも居住はできることなど、居住誘導区域について、次回には事務局から説明をお願いしたい。

(2) 新庁舎整備基本計画について・・・資料2-2

事務局から、資料に基づき、4つの候補地を比較検討するための指標、指標に基づき委員が事前に各候補地を評価した結果、委員は本委員会の議論を受けて自分の評価結果を修正できること等について説明があった。

委員から出された主な意見は以下のとおり。なお、候補地①は現庁舎周辺、②は美濃太田駅周辺、③は美濃太田駅北側スーパー周辺、④は前平公園周辺を指す。

- ・単に点数の比較で候補地を選ぶのではなく、点数以外の明確な理由にも基づいて選ぶということもよいのではないか。
- ・点数を合計する際は、指標1（立地適正化計画の指標）のウェイトは高い方がよい。
- ・まず指標1をもとにして候補地を絞ったらどうか。B案（A案に比べて指標1のウェイトが2倍になっているもの）の指標1のウェイト2倍という数字には根拠がない。
- ・候補地は②がよいと思う。候補地①は、仮設庁舎のための費用が必要であり、さらに浸水の可能性が一番高い。③は、そもそも土地が購入できないであろう。④は、造成費用が高い。
- ・候補地選定は、もっと行政主導で決めていけばよいのではないか。
- ・指標1を考慮に入れず4候補地を評価してみたかどうか。→事務局で計算した結果を参考データとして掲示した。

(会長から)

- ・現段階では②が有力な候補地になり得るが、事業手法や実現性についての詳細な議論はこれからである。事務局は、次回の委員会までに財政面からの検討と、市としての考え方や方向性をまとめ、次回委員会で説明すること。

今回の委員会では、委員が審議後に各自の評価を必要に応じて修正し、修正後の評価をまとめる予定であったが、時間が無くなり審議結果が得られなかった。従って、候補地の評価は、次回の委員会において継続審議することとした。

7. 今後の予定

次回開催日時の確認がされた。

平成30年12月21日 午後7時00分～9時00分。場所は生涯学習センター203

以上